

だっこするよ

2025 年 9 月



社会福祉法人茂原高師保育園
北区立赤羽台保育園
園長 奥戸 昌子

子どもたちから学んだこと

この夏、熱中症警戒アラートが続いたことで、園内全て遊び場、未満児さん達も2階のお家へ遊びに行ったり、室内での遊びが広がりました。運動を取り入れたゲームや様々な製作活動などを通して、友達と協力しながら工夫する姿や、発想を広げて新しいことに挑戦する姿が見られ、一人ひとりの創造力や協調性がぐんと育ちました。9月も暑さが予想されます。ぜひその日の様子を子どもたちから聞いてみてください。お子さんと達成感をぜひ分かち合っていたいただければと思います。

9月1日は「防災の日」、園では、安全な保育環境の確保と防災教育に力を入れています。避難訓練を重ね、子どもたちが安全に行動できる力を育てています。ご家庭でも備えあれば安心です。非常食や水の備蓄、区の防災マップを確認して家族での避難場所まで歩くのも大切ですね。いざという時に命を守る力につながります。

そして、大災害直後は全てのインフラが止まる可能性があります。帰宅困難時には、保護者の皆さんは、ご自身の安全確保を最優先にしてください。お子さんは、お迎えまで全力でお預かりしています。

先月の職員会議では「子どもたちから学んだこと」をテーマに、各クラスで日々の気づきを出し合い、皆で共有しました。改めて、子どもたちと生活を共にする中で、私たち大人がどれほど多くのことを教えられているのかを実感する、貴重な時間となりました。

0歳～2歳未満児組では、「昨日できなかったことが今日にはできるようになる日々の変化」「泣いて気持ちが混乱しているときでも、わらべうたや遊びを通して心が通じ合うこと」「子どもの柔軟な発想や探究心に驚かされること」「大人が“待つ”ことの大切さを学んだこと」といった声がありました。また、排泄をして「いいにおい」と表現する子どもの姿からは、大人の固定概念にとらわれず、その子が感じた言葉をそのまま受けとめることの大切さを改めて教えられました。一人ひとりの発達の歩みに寄り添う中で、仲間意識の芽生えや、大人の姿をよく見て真似をする力など、日常の小さな場面に多くの学びがありました。

3歳～5歳以上児組（異年齢保育）では、「できる・できない」ではなく「楽しいから遊ぶ」ことが子どもの原動力であることや、友達同士の気持ちのすれ違いを自分たちで解決する力があることが話題になりました。子ども同士で教え合う姿や、おうちでのルールを話し合う力、また子どもから伝える方がよく届く場面も多く、会話から保育のテーマが広がることもあります。たとえば「蟻の巣を見たい」という声から蟻の巣キットを購入して観察につながったことは、その良い例です。さらに、当番活動を通して責任感が育つこと、苦手なことにも挑戦し続けて上達し、年下の子に教える姿も見られました。友達の良いところを見つけて伝え合い、自然に支え合う姿からは、子どもたちの温かな関わりが育っていることを実感します。

子どもの一つひとつの姿に理由があり、私達は、常に子ども理解を深めて、共に成長していかなければと実感しました。「子どもは生まれながらに人間である」ポーランドの医師であり教育者であったコルチャック氏の言葉です。子どもを未完成な存在としてではなく、一人の尊い人間として向き合うことこそ、私たちの保育の根幹です。今後も「無限の可能性を秘めた子どもたちと共に学び合い、成長を重ねて参ります。

さて、27日保護者との合同研修「いのち・心・体・性教育」鶴岡助産師をお招きします。命の尊さやご家庭での関わり方などをお話していただきます。包括的性教育は、心と体の大切さを伝え、自分も他者も互いに大切な存在であること、人権尊重の教育です。乳幼児期にこそ伝えていきたいことです。皆様、是非ご参加ください。 写真は夏祭り！最高！